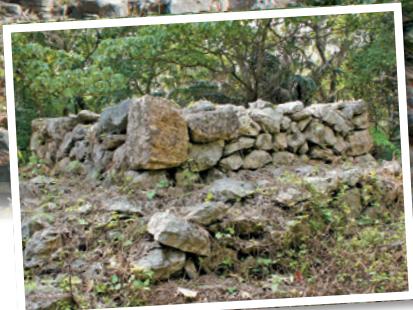
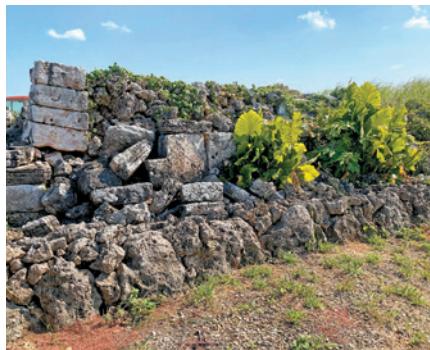


◆墓を巡る③

琉球史研究家の上里隆史氏が沖縄の歴史文化の魅力を本誌上で連載しています。



シニグンニ (今帰仁村)



スムリヤーミヤーク (宮古島市 来間島)

平良の仲屋金盛ミヤーカは16世紀に宮古島を統治した仲宗根豊見親の子、仲屋金盛の墓です。このように宮古島の各所で独特な墓を見る事ができます。なお仲宗根豊見親の墓はこの独特なミヤーカと沖縄本島にもある横穴式の墓をミックスさせた様式となっています。彼が首里王府に従い、先島の覇権を握った背景も影響しているのでしょうか。

来間島のスムリヤーミヤーかは東西9m、南北6.5m、高さ2.5mの長方形の墓で、長間家一族の墓と伝えられています。内部は3つの石室からなり、14、15世紀の遺物も見つかっています。この墓は大正時代まで使用されていました。

亀甲墓や堀込墓といった形式以外の墓も沖縄には存在しています。宮古の島々にはミヤーカと呼ばれる風葬墓があります。その形態は巨大な石棺墓で、一枚岩の大きな石でふたをし、石棺の周りを石垣で囲うものです。



仲宗根豊見親の墓（宮古島市）

宮古地域のミヤーカと似たような
形式の構築物が、実は沖縄島北部の
今帰仁にも存在しています。今帰仁
ゲスク周辺の森には階段ピラミッド
のような石積みの構築物が点在して
います。そのなかで最も大きいのが
ミームングスクです。3段に積まれ
た高さは約3m、一辺の幅は約19m。
物見台だった可能性も指摘されてい
ますが、レーダー調査をおこなった
ところ反応があり、内部に石室のよ
うな空間がある可能性が出てきまし
た。頂上部がくぼんでいることから、
空洞部が崩れたのかもしれません。

ら男性とみられる骨が見つかり、これらが墓である可能性が高まりました。ただ埋葬者が誰なのかはわかりません。今帰仁グスクの周囲にすることから北山王関連の墓とも考えられます。それを裏付ける証拠はまだ見つかっていません。



仲屋金盛ミヤー力 (宮古島市)

上里 隆史
(うえざと:たかし)

琉球史研究家。内閣府地域活性化伝道師。法政大学沖縄文化研究所研究員。早稲田大学大学院修士課程修了。著書に『琉球という国があった』(福音館書店、2020年)、『海の王国・琉球』(ボーダーインク、2018年)、『マンガ沖縄・琉球の歴史』(河出書房新社、2016年)、『尚氏と首里城』(吉川弘文館、2015年)など。NHKドラマ「テンペスト」時代考証や、NHK「プラタモリ!」案内人などメディアでも活躍。

